



技術先進性のさらなる拡大と展開へ

常務取締役

磯本 辰郎

山陽特殊製鋼技報第18巻の発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

はじめに2011年3月11日に発生しました東日本大震災で、被災された方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。被災地域の日も早い復興をお祈り申し上げます。

世界経済は、2008年のリーマン・ショックにより大きな打撃を受けた後、緩やかな回復傾向にありましたが、EUでの金融情勢の悪化や、中東諸国での民主化運動、この度の大震災の発生などが、世界経済に対してどのようなインパクトを及ぼすか予想し難く、先行きは不透明な状況にあります。このような環境下で、当社は総合力を向上させ、諸問題を解決することにより、震災復興を含めた経済全体の活性化の一翼を担わなければならないと考えています。

中長期的な特殊鋼需要を見通す上で、考慮しなければならないことは、BRICs、ASEAN等新興国経済の発展による世界経済の多極化と低炭素社会の進展です。現在、GDPランキングの上位を占める先進諸国は、将来、これらの新興国に取って代わられると予測されています。又、低炭素社会の実現に向け、エネルギーの高効率化と低炭素化を可能とする技術革新が、絶え間なく進行しています。高効率発電技術の開発、風力、太陽光などの再生可能エネルギー利用技術の開発、さらには、電気自動車、燃料電池自動車の開発などが、それに相当します。これらによる特殊鋼の需要構造の変化を迅速、かつ正確に把握し、お客様のニーズに合致した商品の提供が、より一層重要になってくると考えています。

さて、当社では今年度より第8次中期経営計画をスタートさせました。経営基本方針として、『「高信頼性鋼の山陽」のブランド力の更なる向上による企業価値の増大』を掲げ、非価格競争力をより一層高め、その上でコスト競争力の強化も同時に図ることにより、国際競争力のある企業体質を確立していく所存であります。そのためには、営業部門、技術部門、生産部門のみならず、グループ会社との連携を強化することにより、総合力をさらに向上させる必要があります。

技術部門におきましては、非価格競争力、コスト競争力強化のため、技術先進性の更なる拡大と、グローバルな展開を図っていきます。当社の先進技術は、高信頼性鋼を生み出す高纯净度鋼製造技術を基本とした製造プロセスの融合技術、高機能化を可能にする制御技術、高度な品質保証技術などがありますが、これらをさらに強化し、高付加価値商品の拡充、画期的なプロセス技術の開発、ワンランク上の品質レベルの実現などを推進します。これらの先進技術を通じて生み出されるコスト競争力のある高付加価値商品を、お客様に迅速に提供することで、幅広く社会に貢献し、世界の技術をリードする企業を目指してまいります。

今後とも、皆様方のより一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。